

伊祢都氣波	可加流安我手乎	許余比毛可	等能乃和久胡我	等里豆奈氣可武	万葉集 卷十四 3459 東歌
稻搗けば	輝る吾が手を	今夜もか	殿の若子が	取りて嘆かむ	
いねつけば	かかるあがてを	こよひもか	とののわくごが	とりてなげかむ	
稲をついて	ひび割れした手を	今夜も	若殿さまが	手に取って嘆くことよ	